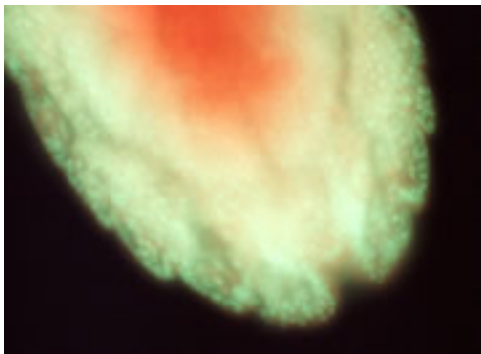


サマースクール2007年度の報告

ハエとクモ、そしてヒトの祖先を知ろうラボのサマースクール 「細胞の中のDNAを見よう！」



今年のテーマは「細胞の中のDNAを見よう！」でした。それぞれに個性のある中学1年生の3人が実験に挑みました。ハエの幼虫、ハエの卵、クモの卵の3つからひとつを選んでDNAと細胞の骨格を異なる色の蛍光色素で染色し、顕微鏡で観察するという実験です。ラボのメンバーとのマンツーマンでの指導でしたが、教えることは必要最小限にとどめました。研究者になったつもりで、主体的に何かを発見しようとして欲しいと考えたからです。

0.5mmほどの小さなものが相手なので顕微鏡をのぞきながらの作業が続きましたが、みんななんとかやっていました。細かい作業が好きな人とそうでない人がいるのは、我々研究者も同じです。今回の実験の要は顕微鏡での観察です。複雑な操作を必要とする顕微鏡ですが、みんな驚くほどに習得が早く、顕微鏡に向かう姿が格好良かったです。写真をとるための視野を決めるのにそれぞれにこだわりがあったのは、何かを発見したいという気持ちの現れだったと思います。今回のサマースクールが、生物のからだを構成する細胞に興味を抱くきっかけになったなら非常にうれしく思います。

小田広樹（研究員）

ハエとクモ、そしてヒトの祖先を知ろうラボ**身近な生きものに目がいくようになりました**

サマースクールでは普通ではできないような事がたくさんできて良い機会だと思いました。たとえば、顕微鏡をつかったハエの幼虫の解剖はおもったより細かい作業だったし、いままできいたことのない薬品（CGBS液やPBSTなど）をつかうのにも緊張しました。でも、担当の人がとてもわかりやすい説明や助言をしてくれたので初めてのぼくでもなんとか作業することができ、写真撮影では何枚かうまくとることができてほっとしました。それに同じ研究グループに中1生が2人いたので少し気が楽になりラッキーでした。ひとつ不満があるのは時間が短すぎたことです。

ランチパーティーでは他のグループの人も話しかけてくれて楽しくすごすことができました。最後の発表のときぼくは緊張してあまりうまく説明できなかったけど、他の人はとてもわかりやすく説明していたのでさすがだなと思いました。このサマースクールに参加するまではハエやクモなどにあまり興味をもったことがなかったのですが最近は身近な昆虫やいきものにも目がいくようになりました。これからももっとこんな機会をつくってたくさんの人にいきものの不思議を知り、おもしろい体験をしてもらえるようにがんばってください。本当に楽しく有意義な2日間でした。ありがとうございました。

(中学生)

神秘的・幻想的な世界に関心をもちました

中学生でも参加できるラボというものは、どういうもので自分でもできるのかと最初不安でしたが、研究員・大学院生のみなさんが優しく、わかりやすく教えてくださったので僕は安心しました。僕が参加させていただいた「ハエとクモそしてヒトの祖先を知ろうラボ」の参加者は全員、中学一年生でした。またそれで安心しました。

核・遺伝子・細胞骨格というものは、普段日常ではみることの出来ないものでとても神秘的・幻想的でした。誕生日に細胞の本を買ってもらおうかと考えるほど関心を覚えました。今回、私を選んでいただきましてありがとうございました。



(中学生)

顕微鏡写真を大切にしています

何回か展示を見にきたことはありますが、研究室を見たのは今回が初めてでした。研究員の小田さんや大学院生の金山さん達にはすごく優しく接して貰い本当に有難うございます。今回のサマースクールの事はすごく良い思い出になりました。この経験を生かしているんな事を知りたいと思います。顕微鏡をつかって撮影した写真は今も大切に保管しています。また一緒に研究ができればと思います。将来僕も分野は違うかもしれないけれど同じような仕事に就いているんな人に生物の事を教えたいです。



(中学生)

[▲このページの上にもどる](#)



CLOSE



Javascriptをオフにしている方はブラウザの「閉じる」ボタンでウインドウを閉じてください。